

郡上農林事務所の普及活動状況

令和4年4月30日現在

今月の重点活動

■ 夏秋トマト・研修 郡上トマトの学校での実習始まる

令和4年度の郡上トマトの学校は、2年目研修生1名と今春入校した1名の計2名体制で研修を行うこととなり、各研修生は4月8日からほ場での実習および座学による研修を開始した。

4月14日には、JA技術指導員、普及指導員らの指導のもとでセルトレイ苗からポットへの仮植及びトンネル被覆を実施した。

農業普及課では苗の温度・水管理等それぞれの作業について内容・意味等を詳細に説明し、研修生からの質問へも的確に返答することで研修生の技術習得に向けた支援を行った。

今後も、より充実した研修に向け関係機関と連携しながら研修生への支援を行う。



【研修風景】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■ 就農支援 新規就農者研修施設の修了式・入校式開催

4月8日、JAめぐみの新規就農者研修施設の修了式・入校式が執り行われ、研修施設の一つである「郡上トマトの学校」を支援する農業普及課も来賓として出席した。

式では、研修施設の紹介や修了生1名からは就農に向けた思いを、また入校生1名からは研修にあたっての抱負の発表があった。

その後、JAめぐみの山内清久組合長がそれぞれに修了証・入校証を手渡し、新規就農への期待を述べられた。

令和4年度は「郡上トマトの学校」への研修生が1名あり、農業普及課では関係機関と連携し支援を行う。



【入校証を受取る
研修生】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■ 夏だいこん・生産安定 ひるがの高原令和4年産夏だいこんの栽培始まる

4月15日から令和4年産ひるがの高原だいこんの播種が開始された。本年は、積雪が多く雪解けの遅れによるほ場準備の遅れが心配されていたものの、3～4月上旬にかけての降雨や気温上昇により、例年どおりに播種を開始することができた。

しかしながら、だいこん栽培を取り巻く環境は厳しく、気象変化に対応できる品種の選定や生産資材高騰対策、ゲリラ豪雨による土壌流出対策など、様々な取り組みが必要となっている。農業普及課では現地試験及び調査により、だいこんの安定出荷、安定品質を確保できるよう支援を行う。



【播種後のだいこんほ場】

郡上農畜水産物のブランド展開

■大麦・新品種 収量・品質の向上を目指して

郡上市の南部地域では営農組織が中心となって、稲作の補完品目として大麦が約45ha栽培されて麦茶用に出荷されている。現在「ミノリムギ」という品種が栽培されているが、収量・品質が不安定という課題を抱えている。

そこで、数年前から「ファイバースノウ」という代替品種の試験栽培を行っている。4月14日にはタンパク含量を向上させるための実肥を施用し、施肥体系の見直しを行いながら収量・品質の向上を目指している。

農業普及課では、JAと連携しながら生育調査や品質分析などの調査を行い、大麦の品種の切り替えを進めている。



【実肥試験区の状況
(4/14 現在)】

■夏秋いちご・新品種 夏秋いちごの県育成品種試験を開始

ひるがの高原いちご組合では、9戸の組合員が夏秋いちごの生産に取り組んでいる。現在組合では、民間企業育成品種である「すずあかね」を栽培しているが、近年夏場の気温上昇による果実品質や収量への影響が懸念されており、地域に適応した県オリジナル品種の開発が期待されている。

4月25日に郡上市高鷲町の組合員のハウスにおいて、県農業技術センターが育成した試験品種の定植作業を実施した。今年度は有望系統の選抜に的を絞り、14系統の試験栽培により栽培適性を確認する。

農業普及課では、研究機関と連携して試験の着実な実施をサポートするとともに、各種栽培技術の情報提供を通じた高品質安定生産支援を行う。



【定植作業の様子】